

平成二十三年 入学試験問題

国語

実施日 平成二十三年二月十五日（火）

注意事項

1. 問題は、からまであり、十四ページまで印刷してあります。
2. 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
3. 問題の都合上、本文を改めた部分があります。
4. 記号で答えられるものはすべて記号で答えなさい。
5. 句読点は字数に含めません。

札幌大谷高等学校

□ 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

上の雪

① さむかろな。

つめたい月がさしていて。

下の雪

② 重かろな。

何百人ものせていて。

中の雪

③ さみしかろな。

空も地面じべたもみえないで。

(金子みすゞの詩)

問一 詩中に用いられている表現技法を次の中から全て選び、記号で答えなさい。

- ア 対句法 イ 反復法 ウ 倒置法 エ 直喩 オ 擬人法

問二 ———線②・③の理由を、————線①について書かれた【例】を参考にして、それぞれ一〇字以上二五字以内で空欄を埋めて完成させなさい。ただし、「上の雪」「下の雪」「中の雪」以外の詩中の言葉は用いてはならない。

【例】① 上の雪がさむいのは、中の雪と下の雪が自分の下にもぐりこんでいるからである。

② 下の雪が重いのは、からである。

③ 中の雪がさみしいのは、からである。

問三 「上の雪」「下の雪」「中の雪」の置かれている状況を説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最も不幸なのは「下の雪」で、最も罪深いのは「上の雪」である。

イ どの雪も同程度に不幸で、同程度に罪深い。

ウ 最も不幸なのは「中の雪」で、最も罪深いのは「上の雪」である。

エ どの雪も不幸でも罪深くもない。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

京治と香津子はキャッチボールを縁に知り合って結婚し、二人の間に英治が生まれた。京治は息子の英治と野球をすることを楽しみにしていたが、よちよち歩きができるようになった頃、英治は紫外線が皮膚に当たると生命に危険がある難病であると診断された。

九歳の誕生日を迎えた日、三人だけのささやかなバースデー・パーティーの席で、英治が訊いた。

「僕は何歳まで生きられるの？」

「ずっと生きられるわ。ママとずっと生きましようね」

香津子の言葉を聞いて、京治は息子に何かをさせようと思った。それが何なのかわからなかった。

答えは、一カ月後、英治の口から出た。

「パパは僕と同じ歳の時は野球に夢中だったんだってね。パパ、僕に野球を教えて」

「ああ、いいよ」

京治は翌日、英治にユニフォームと帽子、スパイク……、そしてグローブとボールを買って帰った。

それを見て香津子は逆上した。

「そんな惨いことはやめて。英治はグラウンドには出られないのよ」

「そんなことはないさ」

家の中でユニフォームを着て喜んでいる息子の姿を見て、京治は胸が熱くなった。

——この子と一緒にキャッチボールをやろう。

京治は家の近所でキャッチボールができそうな場所を探したが、どこも暗過ぎて適当な広場がなかった。

京治は会社の同僚や学生時代の友人に連絡し、ナイター設備のあるグラウンドを探した。親子二人のキャッチボールのために一晩グラウンドを貸してくれる球場はなかなか見つからなかった。ようやく見つけたのが秩父にあるトウサ¹ンした土木会社のグラウンドで、一晩だけ照明を点けられるということだった。京治は、そのことを香津子に話した。香津子は反対した。それでも京治は英治を連れて、秩父へ行くつもりでいた。

不機嫌な香津子とユニフォームを着た英治をワゴン車に乗せて、陽が落ちた東京を出た。秩父に着いたときには、夜の九時を過ぎていた。グラウンドはすぐにわかった。そこにだけ照明灯が光っていた。グラウンドに車を横付けすると、²コウハイしたグラウンドの外野に錆びついたブルドーザーが置きっ放しだった。照明灯も灯りが点っているのはライト後方だけだった。それでも車から降りた英治は大きな声を上げてグラウンドにむかって走り出した。

「英治君、走っちゃだめ。転ぶわよ」

① 金切り声を上げて、香津子が後を追った。

京治は素早くユニフォームに着換えて、グラウンドに入った。夫のユニフォーム姿を見て、香津子が目を見開いていた。英治がまぶしそうな目で京治を見上げた。

「英治、まずはグラウンドを一周歩こうか」

無理をさせないでね、背後で香津子の声がした。京治は息子の手を引いて、ホームベースに立ってから、ゆっくりと左翼の方にむかって歩き出した。草の匂いを含んだ風が二人に吹いていた。

「パパ、これって何の匂い？」

「野球場の匂いだよ」

「ふうん」

英治は仔犬のように鼻を突き出し、京治に笑い返した。二人は外野の朽ちたフェンス沿いを右翼のカクテル光線にむかって歩いた。

「野球場って大きいんだね」

「もっと大きな野球場だってあるぞ。次はそこで一緒に野球をしよう」

「うん」

京治の顔を見上げた英治が足元の杭くいに引っかかって前のめりに倒れた。あつ、と京治は声を出し、抱き起こそうとした。その前に英治が立ち上がった。両手が泥だらけだった。

「大丈夫か」

「うん、平気だよ」

英治は両手を胸の前でひろげ、泥に汚れた手をどうしたものかという顔をしていた。京治はしゃがみ込んで、足元の泥を抉えぐり取って、自分のユニフォームを叩たたくようにして泥を拭ふいて笑った。それを見て英治が同じ仕草をした。

二人はカクテル光線の下でキャッチボールをはじめた。オドロ3いたことに顔にむかって飛んできたボールを英治は怖おそがりもせずグローブで受け止めた。無理をしているのがわかった。家の中でキャッチボールを教えた時のことを覚えていて、実行しようとしているのだろう。でもそれは少年がキャッチボールを体得するために覚えなくてはいけないことだった。

「英治、上手いな」

「うん。怖おそくなんかないよ、僕。昼間一人で練習をしてたんだ」

「……そうか」

息子が精一杯投げってくるボールは九歳の少年にしては力がなさすぎた。京治は A が熱くなった。

——これでいいんだ。これがキャッチボールなんだ……。

京治は胸の中でつぶやき、ボールを息子にむかって投げ返した。⁴カゲン4をし過ぎたボールは手元が狂くるってワンバウンドし、英治の後方に逸よれた。背後の朽くちた金網からボールが飛び出し闇やみの中に消えた。

「あつ、いいよ。パパが取りに行くから」

先に英治が走り出してた。

京治もすぐに追い駆けた。金網の外は盛り上がった畔道かぜたちのむこうに麦畑がひろがっていた。ボールはそこに入ったようだった。

「危ないから、そこにいなさい」

京治が一人で麦畑に入っていくと、英治がついてきた。

「あつた」

英治の声がして、振りむくとボールを手に息子が笑っていた。京治も笑ってうなずいた。

英治が鼻を鳴らすようにして、Bだね、と言った。

見回すと、月明かりに実った麦の穂が風にユれてた。

京治は麦の穂を右手で握りしめ、手の中に残った麦のひとつを口に入れて噛んだ。英治は、小首をかしげて京治を見上げ、ボールを握ったちいさな指を京治の手の上に持ってきた。京治はボールを取って、その手に麦をひとつ載せた。

英治は、それを指先でつまんで口の中に放り込んで、前歯で噛むようにした。

「苦いね」

「そうだな、少し苦いな」

「少し苦いな」

② 息子は父親の言葉を真似て言った。

その夜から、二カ月後に英治は病院のベッドで静かに息を引き取った。

英治が死んでからしばらくして、入院前の早朝、ユニフォームを着て歩いていた少年を何度か見かけたという噂うわさが立った。それが英治なのかどうかはわからなかった。ただ一度だけ、香津子に英治が青空の下の野球場を見に行きたい、と

言い出したことは、妻から聞いて京治も知っていた。

香津子は京治が野球をさせたことが、英治を死に追いやった、と信じ込んだ。

もし青空の下にユニフォームで出て行ったのなら、息子を死なせたのは、たしかに自分なのだろう、と京治は思う。ただ^③野球を教えてやったことは間違いいはない気がする。それがエゴと言うのなら、エゴと呼ばれても仕方ない。

——俺は何かを伝えてやりたかった。あの子は何かを知りたがっていた……。

京治はぼつぼつと歩き続け、急に立ち止まった。

誰かの声があったような気がした。

振りむくと、ただ麦の穂がざわざわと音を立てているだけだった。

(伊集院静『麦を噛む』より)

(注) *ライト……………野球で、本塁から見て右側の外野。右翼。

*左翼……………野球で、本塁から見て左側の外野。レフト。

*カクテル光線……………野球場などの夜間照明用に使う光線。

問一 ———— 線1〜5のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 空欄 A には身体部分の名称が入る。適当な語句を漢字二字で書きなさい。

問三 空欄 B に適する語句を本文中から六字で書き抜きなさい。

問四——線①「金切り声を上げて、香津子が後を追った」とあるが、この香津子の言動はどのような思いによるものか。

次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 生命の危険を顧みずに、野球に夢中になる夫と英治の行動に対する落胆。

イ 夫の態度への反感と、英治の生命のために野球をさせたくないといういらだち。

ウ 夫と英治との信頼関係が深まり、大切に育てた自分から離れていくことへの動揺。

エ 夫の思いを理解しながらも、野球に対する興味を持たせたくないという苦悩。

問五——線②「息子は父親の言葉を真似て言った」について、本文中には他にも英治が京治をまねる様子が描かれて

いるが、そこには英治のどのような思いがあるのか。一〇字程度で書きなさい。

問六——線③「野球を教えてやれたことは間違いではない気がする」について、京治がこのように思ったのはなぜか。

六〇字以内で書きなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

*しもしほ
下野の国に男、女住みわたりけり。①年ごろ住みけるほどに、男、妻②まうけて心変はり果てて、この家にありける物

住み続けていた。

住んでいた間に、

こしらえて

どもを、今の妻のがりかきはらひもて運び行く。④心憂しと思へど、なほまかせて見けり。塵ばかりの物も残さずみな

のところへ洗いざらい

情けない

それでもそのまま見ていた。

もて去ぬ。ただ残りたる物は、馬ぶねのみなむありける。それを、この男の従者、真楯といひける童を使ひけるして、

使いとして、

このふねをさへ取りにおこせたり。この童に女の言ひける、「きむちも今はここに見えじかし。」など言ひければ、この飼馬桶までも取りによこした。

「お前ももうこれからここへは来ないのだからね。」

「などてか候はざらむ。主おはせずとも候ひなむ。」など言ひ、立てり。女、「主に消息聞こえむは申してむや。どうしてお伺いしないことがあります。御主人様はいらっしゃらなくてもきつとお伺いしましょう。」

「どんな様にお使ひ申し上げたら伝えてくれますか。」

文はよに見給はじ。ただ言葉にて申せよ。」と言ひければ、「いとよく申してむ。」と言ひければ、かく言ひける、手紙は決して御覧にならないう。ただ言葉で申し上げなさい。」

「きつとお伝え申し上げます。」

(もとの妻は) 次のように言つた、

「ふねも去ぬまかちも見えじ今日よりはうき世の中をいかで渡らむ

(夫の名残の) 飼馬桶も行ってしまふ。真楯ももう見ることはできないだろうよ。今日からこのつらい世の中をどのように過したらよいのでしょうか。

と申せ。」と言ひければ、男に言ひければ、物かきふるひ去にし男なむ、しかながら運び返して、もとのごとくあかと申し上げなさい。」

家財道具を洗いざらい持って行った男は、そっくりそのまま

らめもせて添ひるにける。

二人仲良く暮らしたぞうだ。

(注)

*下野の国……現在の栃木県。

*馬ふね……飼馬桶かまはし。馬の食料を入れる桶。

*真楯……召し使いの少年の名前。

問一——線①「年ごろ」の意味を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 結婚にふさわしい年齢 イ 半年 ウ 年配 エ 長年

問二——線②「まうけて」・③「かきはらひ」を現代かなづかいに直しなさい。

問三——線④「心憂し」と思った理由を具体的に説明しなさい。

問四——線⑤「おこせたり」・⑥「言ひければ」の主語の組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ⑤男 ⑥男 イ ⑤男 ⑥真楯といひける童
ウ ⑤真楯といひける童 ⑥男 エ ⑤真楯といひける童 ⑥真楯といひける童

問五——線⑦「もとのごとくあからめもせて添ひみにける」のようになった理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 馬ふねをよみ込んだ歌を通して女の気持ちが変わったから。
イ 馬ふねを奪い取る自分をあさましいと感じたから。
ウ 馬ふねを取りに行こうとした童の忠告を受け入れたから。
エ 馬ふねが女にとってとても大切なものであることに気づいたから。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔から「信じる者は救われる」と言われます。何を信じるか、何を信じたらいいのか、というのは永遠の問いです。そして、いまを生きるわれわれの心の問題の多くは、「何も信じられない」というところに発しているのではないかとも思います。

「信じる」という行為は、人にとってはきわめて重要なことで、それは、「ものごとの意味を問う」という近代的な問題と密接に関係しているのです。

近代以前の世界には、ヨーロッパでもアジアでも「宗教」というものが厳然と存在し、人はその中で生きていました。むろん、現代の私たちも、人が死ねば葬式をやりま¹すし、お盆やお彼岸には墓参りもします。そういう宗教はいまも依然としてありますが、^①かつての宗教はそれとはまったく違うものでした。

「宗教の自由」という言葉があるように、現在の宗教は個人が自由に選びとれるものになりましたが、かつての宗教は、人びとが生きている世界そのもの、生活そのもの、もつ²と言え³ば、人びとの人生と一体化したものでした。

信仰を意味する「レリジョン (religion)」の語源はラテン語の「レリジオ (religio)」で、制度化された宗教というニュアンスがあります。A、宗教というのは「個人が信じるもの」ではなく、「個人が属している共同体が信じているもの」だったのです。

共同体の生き方そのものですから、そこに生きる人にとっては疑問の余地のない説得力を持っています。ゆえに、「私は何を信じたらいいのか」という問い自体が生まれてきません。これは非常に幸せな状態だったと言えます。

なぜ幸せかと言うと、人生の中で²遭遇する出来事に対して、いちいち疑問を感じたり、自分で意味を探し出したりする必要がないからです。B、私はなぜ生まれてきたのか、なぜ病気になる³のか、なぜ人を敬わねばなら

ないのか、なぜ働かねばならないのか、死とは何なのか……。こうしたことに対して、自分のまわりの世界のほうが、あらかじめ答えを用意してくれていたのです。言ってみれば、母親の子宮の中で被膜に守られ、栄養をもらって生きている胎児のようなものです。

したがって、かつての人びとは、「私の人生はいったい何だったのか」といった³ 飢餓感をあまり感じることなく、「何かたらしく食べたな」というある程度の満足感のうちに、一生を終えることができました。

いまわれわれは「当時の人は迷信の中に生きていた」などと言いますし、ときには「個人の自由が縛られていて不幸だった」とも言います。が、それは後知恵であって、当時の人びとは決して不幸ではなかったのではないのでしょうか。

これを逆に言えば、近代以前は、人が何を信じ、ものごとの意味をどう獲得するかという問題は、「信仰」によって覆い隠されていたとも言えます。そして、信仰の覆いがはずされ、「個人」のすべてに判断が託されてしまった近代以降、⁴ 解決しがたい苦しみが始まったと言えます。

* ウェーバーが取り組んだ「宗教社会学」は、キリスト教だけでなく、ヒンドゥー教や仏教など、世界宗教を社会的に解明し、信仰によって覆い隠されていたものが一枚ずつ皮をはがされるようにむき出しになっていく過程を追究したものです。

宗教などを抜きにして、自分がやっていること、やろうとしていることの意味を自分で考えなさい——。これは非常にきつい要求です。何かを選択しようとするたびに、自我と向きあわねばならず、その都度、自分の無知や愚かさ、醜さ、ずるさ、弱さといったものを見せつけられることになります。その点では、逆説的に聞こえるかもしれませんが、「現代人は心を失っている」という言い方は間違いで、前近代のほうがよほど心を失っていたのです。

これは人にとってはたいへんな負担ですから、当然、耐えられない人が出てきます。そこで、心のよすがとして、やはり何らかの宗教が必要とされる、ということになるわけです。

十九世紀末、ミュンヘンを中心とする南ドイツでは、（わいそう）瞑想、*チャネリング、臨死体験、死者との対話、テレパシーなど、さまざまな神秘体験をすることが流行しました。じつは現在の^{*}スピリチュアルの原型はこのときまでに出つくしていたのです。それは怪しげな流行だったわけではなく、その背景には、「みなが不安で、頼るべき何かを求めている」という、れつきとした理由があったのです。

C、ここに不幸が立ちふさがります。一つは、世界は科学と合理主義の洗礼を受けて「脱魔術化」された後ですから、どんな宗教も、近代以前の「宗教」に比べれば「擬似宗教」⁵にならざるをえないということです。近代人はウェーバーが言うところの「認識の木の実を食べてしまった」後だからです。

では、どうしたらいいのでしょうか。多少のことには目をつぶって「えいや」で飛びこむか、うすうすインキキだとわかりながら信じたことにするか——と、ここでまた人の心が引き裂かれていきます。

信仰が生きていた時代の方が D だったと先ほど言ったのは、この点においてです。「何をするのも、何を信じるのも自由」というのはつらいものです。ただ広い野原に一人ぼつんと立たされると、人はどこに行ってもいいかわからなくなります。迷子になりそうな不安に襲われるでしょう。それと同じことだと思えます。

（かんけんちゅう）姜尚中『悩む力』より

(注)

*ウェーバー……………ドイツの社会学者。

*よすが……………身や心のよりどころ。

*チャネリング……………一種の自己催眠状態にはいり、潜在意識を通して、日常とは別の次元と交信すること。

*スピリチュアル……………精神的なもの。霊的なもの。

問一 線1〜5の漢字の部分の読み方をひらがなで書きなさい。

問二 線①「かつての宗教」とは、どのような性質のものだったのか。本文中から適切な部分を十九字で抜き出して答えなさい。

問三 線②「解決しがたい苦しみ」とはどのような苦しみのことか。本文中の語句を用いて、五〇字以内で説明しなさい。

問四 空欄 A B C に入る最も適切な接続詞を、次の記号の中からそれぞれ選びなさい。

ア もし イ ところが ウ また エ たとえば オ つまり

問五 D に入る適当な語句を、本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問六 本文中には次の一文が抜けている。この一文を適当なところに入れた直後に来る三字を、本文中から抜き出して答えなさい。

意味を自動的に供給してくれていたのです。